

〔図説〕 松本歯学 30 : 52~53, 2004

key words : 3DX[®] — 槌状根 — 歯内療法

歯科用小照射野 X 線 CT (3DX[®]) 画像診断： 槌状根の観察に有用であった 1 例

趙 満琳¹, 内田 啓一², 新井 嘉則², 黒岩 博子²,
塩島 勝², 宮沢 裕夫¹

¹松本歯科大学 小児歯科学講座

²松本歯科大学 歯科放射線学講座

Diagnostic imaging by limited cone beam CT (3DX[®]):
Useful observation of a gutter-shaped root in a case

MANRI CHO¹, KEIICHI UCHIDA², YOSHINORI ARAI², HIROKO KUROIWA²,
MASARU SHIOJIMA² and HIROO MIYAZAWA¹

¹Department of Pediatric Dentistry, Matsumoto Dental University School of Dentistry

²Department of Oral Radiology, Matsumoto Dental University School of Dentistry

従来、根管形態を観察する場合には口内法 X 線写真により行なってきたが、その形態を三次元的に捉えるのは困難であった。しかしながら、歯科用小照射野 X 線 CT (櫛モリタ製作所, 京都, 以下 3DX[®] とする) の検査により複雑な根管形態を観察することができるようになった。

今回、歯内療法の術前診断に歯科用小照射野 X 線 CT (3DX[®]) を用いることにより槌状根の観察に有用であった 1 例を経験したので、その画像を供覧し報告する。

患者は 44 歳、男性、下顎左側第二大臼歯部の違和感にて 2004 年 12 月 22 日 本学を受診した。同年同日、同部の精査のため口内法 X 線撮影と検査承諾を得て 3DX[®] 検査を行った。

口内法 X 線写真では (写真 1), 下顎左側第二大臼歯において近心側の歯槽骨の垂直的骨吸収と歯根膜腔の拡大を認めるも、根尖病変の有無は明確に観察できなかつた。根管数は 2 根管として認められた。3DX[®] 画像では (写真 2), 歯根膜腔

の拡大と根尖病変を明瞭に観察できた。さらに、口内法 X 線写真では 2 根管として観察されたが、水平断面像の観察においては、髓床底部から近心根、遠心根は癒合しており槌状根を呈していた (矢印)。

槌状根は下顎第二大臼歯または第三大臼歯の約



写真 1 : 口内法 X 線写真; 下顎左側第二大臼歯の根管数は 2 根管として認められる。

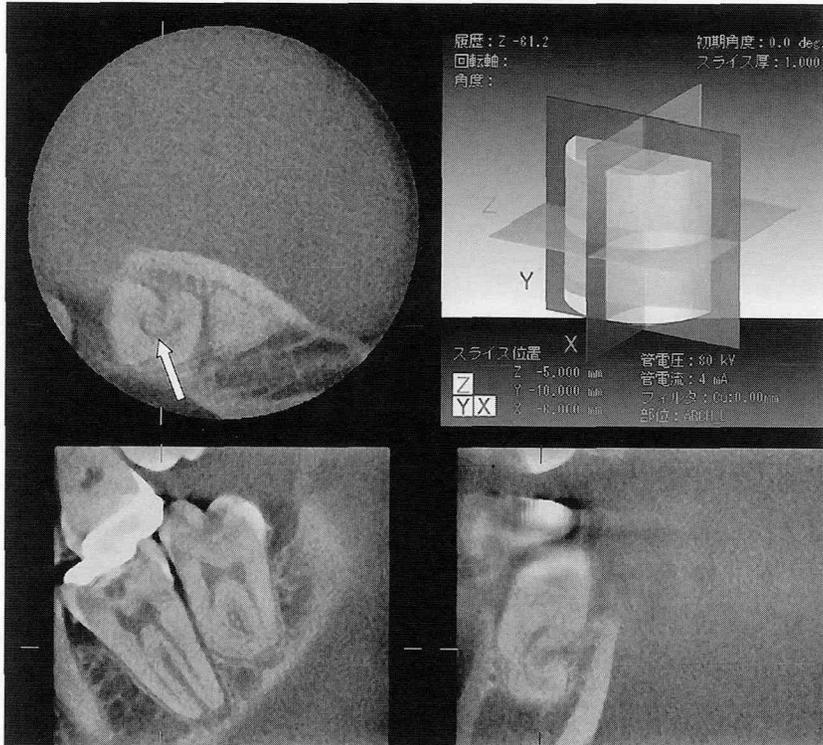


写真2：歯科用小照射野 X 線 CT (3DX[®]) 水平断面像；近心根，遠心根は癒合しており槌状根を呈している (矢印)。

30%の割合で出現する根管形態の異常のひとつである。とくに槌状根の歯内療法後の口内法 X 線写真において適確な根管充填が行われているにも関わらず、その予後が悪い症例に遭遇することがある。この場合、これまでの根管形態の把握や根管充填の結果が二次元的な画像診断によりなされて

きた。

今回の症例のように歯内療法の術前に、根管形態を三次元的画像診断により、術者への有益な情報として、歯内療法の精度や予後の向上につながるものと思われた。